

臨床麻酔レジデントマニュアル

古家 仁 編

川口昌彦, 井上聡己 編集協力

<書評者> 澄川耕二 (長崎大学教授・麻酔蘇生学)

臨床麻酔の実践はまさに患者の生命をあずかることであり、広範な事項にわたって適切な判断が要求される。知識の一部が欠落するだけで重大な結果を招く恐れがあり、実践の根拠となる知識は常に再確認が必要である。医学生は試験で 80 点も取れば余裕で合格するであろうが、専門医の判断には 100 点満点が要求されるのである。

臨床麻酔の実践にあたっては、生理学や薬理学の系統的な知識をベースとした最新の技法ときめ細かな配慮が欠かせない。さらに、臨床の現場で遭遇する偶発症やさまざまな出来事に対しても適切な対処が必要である。本書は臨床麻酔を実践するにあたり、現場での意思決定に必要なあらゆる知識・技術を網羅しており、一部の隙もみせないみごとな構成となっている。麻酔科専門医を目指すレジデントに格好のマニュアルであるが、専門医にとっても知識の欠落がな

いかをチェックするのに大いに有用である。また、初期研修医にとっても具体的な手引書として研修効果を高めることができよう。

本書の記述は実証的かつ具体的で即実践に応用できる。術前評価の章では説明と同意についても項を設け、奈良医科大学麻酔科で実践している術前外来の方法に基づいて、ビデオの利用、説明方法、注意点などをきめ細かに述べる。術前禁煙についても、禁煙 1 日で酸素運搬能改善、3 日で気管支纖毛運動改善、2 週間で喀痰減少、2 か月で肺合併症減少と具体的データを提供する。麻酔管理に必要な手技の章では、各種の麻酔法を解説するが、VIMA や TIVA についても初心者でも実践できるよう薬剤の投与法やタイミング、術後鎮痛まできめ細かい。ラリンジアルマスクや各種挿管器具の使用手技も、エキスパートのテクニックが伝授される。留意すべき症例の

章では、各科手術や特殊症例の麻酔を網羅するが、低出生体重児、覚醒下開頭手術、日帰り手術、エホバの証人などの麻酔や手術室外での麻酔についても必要事項が過不足なく述べられる。術後管理の章では術後外来の実践や術後鎮痛法、術後合併症への対処などが述べられ、麻酔と危機管理の章では CDC 手術部位感染防止ガイドライン、針刺し事故、災害時の対応まで解説が及ぶ。

本書はいつもポケットに入れて携帯できるコンパクトなサイズに作られており、日々の臨床で疑問点を解消するのに大いに威力を発揮するのは間違いのない。要点を箇条書きにすることで、限られたボリュームに膨大な情報量を収載し、しかも調べたい情報の検索が容易である。臨床麻酔の実践能力を高めるために大いに活用されることを薦めたい。

●B6 変型 頁 320 2008 年
定価 3,990 円
(本体 3,800 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00617-0]
医学書院 刊